



舞台芸術「バレエ」に親しむ

―バレエの世界を知り「ドン・キホーテ」を楽しむ―

5年ぶりにバレエを取りあげました。
全2回のイベントの、第1回はバレエに親しむ講演会、
そして第2回は谷桃子バレエ団「ドン・キホーテ」の本公演を鑑賞しました。

4月27日(日)めぐろパーシモンホールでの講演会は、谷桃子バレエ団バレエミストレス 日原永美子先生を講師にお招きしました。颯爽と舞台上に登場された日原先生の立ち姿の美しさと歯切れの良い語り引き込まれつつ、バレエの歴史やテクニク、有名作品などの学びをスタートしました。

バレエはルネサンス期のイタリアで宮廷の余興の一部として、詩の朗読やお芝居と共に「バロ」と呼ばれるダンスとして発生したと言われています。「バロ」が「バレット」と言われるようになり、1533年にイタリアのメデイチ家からフランス王室に嫁いだカトリクス・ド・メ

デイシスにより、このバレットがフランスにもたらされました。その後、ルイ14世により王立のバレエ学校が設立され、基本的な技術の確立、そして芸術として花開いていくことになります。

舞台上では、基本ポジションやテクニク、バレエ特有のマイムなどをダンサーの実演を交えて解説していただき、会場の皆様にも一緒にマイムを体験していただきました。

講演会後半は、作品「ドン・キホーテ」の作品解説とともに、主要キャストによるダイジェスト版の披露がありました。華やかな衣装を身にまとったダンサーたちの超人的な跳躍や美しい回転、息の合ったパドドゥなど、本公演への期待がますます高まる講演会となりました。

約1か月後の5月22日(木)〜25日(日)に東京文化会館にて開催された「ドン・キホーテ」の本公演は、大人気のバレエ団ということもあり全席完売。ロビーも客席も熱気にあふれていました。ストーリーやマイムなどの事前知識を得たことによって細かな演技も理解でき、作品の魅力を一層深く味わうことができました。

今後も、芸術や文化の世界がグッと身近になるような講演会をご提供してまいります。



難易度の高いリフト



踊り子メルセデスはとても華やか



主役の森岡恋さん、森脇崇行さん



超人的なジャンプ



本公演の華やかなフィナーレ



ちょっと可愛いサンチョパンサ



マイムによるストーリー展開



大切なアイテム「扇子」による表現



まずはバレエの歴史から



基本動作が大切



日原先生の立ち姿が美しい



「結婚してください」
「はい喜んで」
のマイム体験



理想の姫だと勘違いする
ドン・キホーテ